

“エンジンフォーラム神戸 2022”

JA2024 開催をPR

国際航空宇宙展2024（JA2024）の開催告知および出展勧誘を主目的として、2022年10月25日（火）～26日（水）にかけて神戸で開催された“エンジンフォーラム神戸2022”に出展・参加したので紹介する。

1. エンジンフォーラム神戸2022の概況

(1) 開催概要

開催日程：2022年10月25日（火）～26日（水）

Seminar：10月25日（火）AM

B to B meeting：

10月25日（火）PM～26日（水）終日

開催場所：神戸国際展示場3号館

（兵庫県神戸市）

主催者：フランス Advanced Business Events（BCI Aerospace）社

(2) 展示会・商談会の概況

エンジンフォーラム神戸は、エンジンに焦点を当てた日本で開催される商談会（B to B meeting）であり、2020年の初回に続き、今回が2回目の開催となる。前回同様神戸市のポートアイランドにある、神戸国際展示場の3号館（面積 約3,800㎡）を使用して開催された。

展示場内には出展各社の商談用のBoothの他、セミナー会場が設置され、商談会に先立ち「先進的エンジンの動向と課題およびその可能性について」、「持続可能性を達成するために推進していくもの、またそのゴールに向かって敏捷に活動すべきこと」、「持続可能な開発目標のための革新的な技術」の各テーマについて、以下9件の講演があった。

（海外の方の講演は、オンラインで実施された。）

1. “International Partnership and Collaboration for Industrial Success”
President and Representative Director, International Security Industry Council Japan, Mr. James Angelus
2. “エンジンプログラムの動向と日本のビジネスチャンス”
三菱重工航空エンジン(株) 民間エンジン事業推進部 次長（営業担当）, 柴田 浩充氏
3. “Global cooperation between Japan and Malaysia in aircraft industry, toward establishment of a framework on creating a sustainable supply chain in Asia”
経済産業省 製造産業局 航空機武器宇宙産業課 航空機部品・素材産業室長, 岩崎 純一氏
Head, National Aerospace Industry Coordinating Office, Ministry of International Trade and Industry (MITI), Malaysia, Prof. Ts. Shamsul Kamar Abu Samah
4. “防衛装備品の海外移転－グローバル市場における日本防衛産業の可能性”
国際安全保障産業協会 非常勤役員, 伊東 あや乃氏
経済産業省 製造産業局 航空機武器宇宙産業課 防衛産業企画官, 府川 秀樹氏
5. “ますます不安定な世界におけるサプライチェーンの回復力”

Director, South East Asia, ArcBlue, Mr. Chris Hampden

6. “宇宙開発技術の拡大に向けた新たなイノベーションの創出”

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
宇宙探査イノベーションハブ 技術領域
主幹, 上野 宗孝 氏

7. “The Future of Flight”

Portfolio Manager, Boeing Research & Technology, Boeing Japan, Mr. Toshio Ono

8. “ネットゼロ・アビエーションに向かって；航空機電動化とクリーンエネルギー”

執行役員, 戦略技術統括本部 副本部長,
新事業関連担当, 森岡 典子 氏

9. “カーボンニュートラルに向けた水素航空機のコア技術開発”

川崎重工業株式会社, 航空宇宙システム
カンパニー エグゼクティブフェロー (水素航空機担当), 木下 康裕 氏

また、今回の商談会では、通常の面談 (Face to Face) による商談に加え、新型コロナウイルスの感染拡大により来場できない海外企業との商談のためにWEBによるオンライン商談も併せて実施されており、面談とオンライ

ンの2方式によるハイブリッド形式の商談会であった。

今回の商談会の開催規模など、他の商談会との比較を以下に示す。

出展は、開催地が神戸ということもあり西日本の地方自治体・航空産業クラスター等の航空宇宙分野の産業振興組織を中心とした団体と、そこに中小サプライヤーが加わる形で多数の参加があり、個々に参加した企業と共に、積極的なビジネスマッチングが行われていた。

海外からの出展Boothは数が少なかったが、どこも盛況であった。また、Booth出展をしていない参加社は、オンラインを活用した活動が行われていた。

今回の展示・商談会は、新型コロナウイルスの新規感染者の減少傾向の環境下、主に対面形式の展示・商談の場となり、それまでに実施して来たオンライン・コミュニケーションを補完する形で、地理的に離れた企業を含めた多くの企業間の、現物を手に取りながらの対面形式での商談が大きな成果を上げている様子であった。

"エンジンフォーラム神戸2022" 開催規模 比較

	エンジンフォーラム 神戸2022	エアロマート 名古屋2021	エンジンフォーラム 神戸2020	国際航空宇宙展 2018 JA2018 TOKYO
参加企業・ 団体数	132社・団体 (出展：90社・団体)	288社・団体 (出展：177社・団体)	201社・団体 (出展：102社・団体)	137社・団体
参加国数	15ヶ国・地域	17ヶ国・地域	17ヶ国・地域	15ヶ国・地域
会場	神戸国際展示場	愛知県国際展示場	神戸国際展示場	東京ビッグサイト
商談形式	面談 + WEB	面談 + WEB	面談 + WEB	面談

(注記) エンジンフォーラム神戸2022、エアロマート名古屋2021、エンジンフォーラム神戸2020：主催者発表値より。
JA2018 TOKYO：BtoB商談会への参加数：展示会結果報告書より。



展示場



展示場入口の検温



商談会場 入口全景



各社の商談用Booth



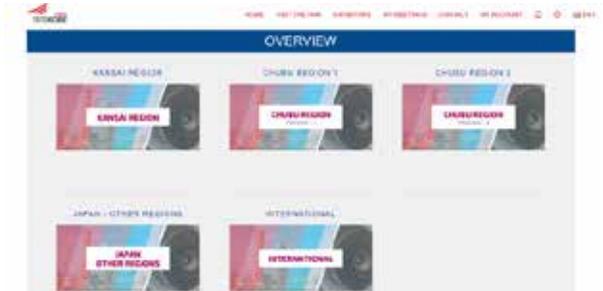
SJAC Booth全景



展示会場内でのセミナーの様子



「バーチャル展示会場」入口



「バーチャル展示会場」例



「バーチャル展示会場」例：日本その他地域



「SJACバーチャル展示Booth」

今回の展示・商談会では、バーチャル展示会場も準備されており、仮想の展示会場に仮想の展示Boothを作成して、出展者の製品、サービス、活動などを紹介できる場が設けられていた。出展先には自分の電子ビジネス・カードを残すことができたり、チャットや直接メールでコンタクトできる機能も備えている。

バーチャル展示会場は、「関西地域」、「中部地域1」、「中部地域2」、「日本その他地域」、「海外」の5つの地区グループに分かれて整備されていた。

SJACもバーチャル展示場にJA2024の開催告知を目的とした仮想の展示Boothを出展し、このBooth内の掲示物、ビデオなどから、JA2024関連情報にリンクを貼り、バーチャル展示会を訪れた関係者に対して、JA2024の開催関連情報に誘導できるよう工夫した。

2. SJACの活動概況

SJACは、JA2024の開催が約2年後となったタイミングの周知、及びこの機会に出展を検討してもらうことを主目的として参加、Boothを出展してJA2024の最新情報を掲載したチラシやグッズの配布、SJACの組織および活動の概要等を紹介する冊子情報を閲覧できるサイト情報（QRコード）を掲載したチラシの配布を行った。

今回の商談会では、出展された地方自治体・航空宇宙産業クラスター、過去に国際航空宇宙展に出展していない海外からの参加企業を中心に16社・団体との面談を事前に設定、対面での面談を実施した。

また、上記の16社・団体以外の出展者・来訪者に対しても、SJAC Boothへの来訪者などへのPRを積極的に実施し、JA2024の開催告知および出展勧誘を行うことができた。

SJACは上述の次回2024年の展示会勧誘活

動に加え、コロナ禍の発生以降に深刻化していた航空機生産の落ち込みによって、生産現場で現業部門の人員離れ（離職や休職派遣による配置換え）を経て、航空機が生産が回復するにつれて現場の人員増加が追い付かないギャップが生まれていることに関し、このギャップの実情・対応策を通じて、製品供給網の強化策について、生の声の聞き取りを行った。この課題は企業の操業地域や製品の種類、あるいはどのようなスキルを必要とする人材なのかによって、問題の深さに大きな差異があり、単純な就労奨励施策や採用・復職活動では有効に機能しない労働市場環境の多様性があることが把握できた。

現状はコロナ前の生産には戻っていない状況にも関わらず既に人員不足が発生したことから、今後の本格的な生産量の増加を前に問題の大きさが、企業経営層や人事担当者に懸念を生んでいる。主に地方自治体で航空宇宙産業の振興を図られている県庁職員の方々や地方の産業振興センターの団体職員の方々から、これらの実情を聞き取り、それぞれ種々の対策として取られている施策の考え方や有効性について、情報を交換した。

またすでに好況な地域と回復の遅れている地域の操業差の原因の共有や先に回復した地域・製品群での有効に人材を集められた例を参考に、航空機製造の業界として対策を打つべき分野の絞り込みや有効だった施策を集め、特に深刻な問題が発生している地域（中京地区）、製品対象（中・大型の旅客機構造組立関連）、増やすべき人材像（部品製造工、構造組立工）を絞り込むことが有効であるとこのフォーラムでの打合せ聞き取りを通して、確かな認識が得られた。今後絞り込んだ対象に関して、施策の具体化を行って、生産現場の人員増の環境を改善する取り組みを当会として準備してゆくこととしている。

3. 所感

新型コロナの第7波が収束し、行動制限やイベント制限が緩和され、また、日本入国の水際対策緩和も開始された中で開催された商談会であり、主催者・出展者は感染防止対策を行いつつも、参加した出展者・来訪者間では多くの商談が意欲的に実施され、参加者の熱気が実感できる展示・商談会であった。

今回SJACとして出展したのは、商談会への出展社・参加者・各関係者に対して、JA2024の存在を知ってもらう良い機会となり、充実した商談会であったと感じた。

展示の面では、比較的小型の展示品が主であり、中・大型物品の展示は今後に期待するものとなったが、商談の面では、オンライン上のバーチャル展示会場も構築され、新型コロナ禍における新たな展示会の形もその成熟度を増し成功していると感じた。

入場受付の混乱を避け参加者把握に効果的な事前印刷した入場証の持参や、過去の同様なイベントに用いた情報と連携したバーチャル展示用の情報管理、また、バーチャル展示会やオンライン会議の運営等、JA2024実施に向けて多くの面で参考となり、対面形式とオンライン形式を活用したハイブリッド形式の様々な活動への効果的な適用方法を更に模索して行くべきと感じた。

また、オンライン形式の利点を再認識する機会とはなったが、従来型の対面形式による展示・商談会が、先に広がる大きな可能性を発見できる場であることには変わりがなく、オンライン活用を併用したハイブリッド型でより大きな相乗効果が得られるものとする。

このためにも、早期の感染症の終息により、世界各国からの出展者・来訪者が参加できるノーマルな商談会が開催可能となることを期待するものである。

関係者が一堂に集まるイベントは、会合に必要な移動時間や出張費用を最小化し、短い日程のうちに多数の方々と効果的な活動を効率よく進める利点がある。コロナ禍以降は経済活動の変化が大きくしかも急激で、バラバラな時期に集める情報は、周辺経済環境の違いなのか製品や技術そのものの市場の位置付けの変化によるものかが判然としないことがあった。集中的に行ったコミュニケーションで得られる情報はその確度を高めることができ、イベントでの交流は、業界の促進や発展に寄与する効能を体感できること

から、業界振興面でのイベントの有効性を示している。

その一方で多くの中小企業から、商談会マッチング照会に対して、大手のバイヤーからのマッチング承諾が得られず、会場での飛込での営業に実際は終始しているとの声がある。サプライヤー側のバイヤーに対する訴求力、競争力の提示方法や実力そのものの向上がないと、マッチング自体が機会を得られない厳しい現実にも対処しておく必要性を感じた。

〔 (一社) 日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 近藤 泰啓 〕
調査部 部長 櫻井 浩己